

6月のコラム 動機より結果？

最近、食品包装の簡素化が進んでいるというニュースをよく見かけます。イラン情勢の影響により、プラスチック製品の原料となるナフサ価格が高騰し、包装資材の見直しが進んでいるようです。

先日、同窓生とそんな話になった時、「子どもの頃、玉子は新聞紙で包んでいたよね」「お豆腐も鍋を持って買いに行ってた」という話題で盛り上がりました。昔にそのまま戻れば良いという話ではありませんが、便利さや見栄えを追求する中で、少し過剰になっていた部分もあるように思います。レジ袋の有料化も、環境保護や意識改革を目的として始まりました。しかし、その効果については様々な意見があり、個人的には、これをきっかけにプラスチックごみ削減への動きが大きく広がったという実感はありませんでした。

それが今回、原材料価格の高騰という“経済的理由”によって、企業側の見直しが進み始めています。環境のために、という理想論ではなかなか進まなかったことが、コストの問題になると一気に動き出す。世の中そんなものですね～。でも、きっかけはどうであれ、結果として無駄が減り、少しでも持続可能な方向へ進むのであれば、それは悪いことではないのかもしれない。

仕事でも似たようなことがあります。

「生産性向上のために業務効率化を」と言われてもなかなか進まないのに、「早く帰って家族と食事したい」「今日はデートがあるから残業したくない」となると、不思議と工夫が生まれたりします。動機は立派でなくても、結果として良い方向へ進むのであれば、それも一つの価値なのでしょう。

とは言え、価格が落ち着いた途端、また元通りの過剰包装に戻ってしまうとすれば残念です。見栄えや便利さは、商品を選んでもらうために大切な要素です。ただ、買う側も「少し簡素だけれど、その分無駄が少ない」という選択を受け入れていかなければ、こうした変化も一時的なものに終わってしまうのかもしれない。

今回の見直しは、原材料価格の高騰という、いわば外からの圧力によって始まったものです。しかし、きっかけはどうであれ、無駄が減り、少しでも持続可能な方向へ進むなら、それも一つの前進なのかもしれません。